

2016年9月9日（金）

フジサンケイビジネスアイ

日本アニメーション 大庭伸さん

まるちゃんの動きを検査

私の仕事

テレビ番組などのアニメーションを制作する日本アニメーション（東京都中央区）の作画部（同多摩市）で、テレビアニメ「ちびまる子ちゃん」などに登場する人や物の動きがスムーズに、自然に見えるかなどを検査する。

アニメは人や物の動きを少し

ずつ変えた絵を、バラバラまんがのように、1秒間に最高24枚連続で流して動きを表現する。

1回30分の放送には、約4000枚の絵を使う。絵は10人以上で手分けをして紙に鉛筆で描く。

放送約2カ月前に、映像に加工する前の多くの絵が届く。それをめくりながら、人物などを本物のようになめらかに動いて見えるかをチェックする。

例えば、主人公のまる子がふり向く場面では「左右の目の動き

おおば・しん 東京アニメーター学院でアニメ制作を学び、卒業後、別の会社でアニメの作画などを担当。1995年日本アニメーションに入社。48歳。沖縄県出身。



「『ちびまる子ちゃん』の放送は毎回見て動画のできかたを確かめる」としている「大庭伸氏」

きが同じように変わらか、頭の線がゆがんでいないかに注意する」。少しでもぎくしゃくしていると、消して描き直す。

登場人物の気持ちがよく伝わるよう手直しすることもある。「線の大きさを変えたり、直線と曲線を使い分けたりする」

1回の放送分の絵を調べるのに約2週間かかる。その後、それぞれ別のチームが着色し、景色を入れ、アフレコを経て番組が完成する。「後に読く工程に間に合うように、必ず計画から遅れないように仕事をする」ことを心がけている。

訂正 7日付11面の「『人』が変える地方創生」の記事中、「埋蔵文化財」とあるのを「文化財」に、「官民連携」とあるのを「官民」に、「スマートフォンアプリ」とあるのを「サービスやメディア」に訂正します。